資料　６

富山清琴委員意見発表資料

（３）文化芸術振興のための重点施策について

○　文化芸術の分野ごとの振興策について

①分野毎の政策目標をどのように設定し、それぞれの分野における効果的・効率的な振興方策をどのように構築するか。

芸術と申しましても、造形芸術、表情芸術、音響芸術、音語芸術と多義に渡ります。
音響芸術（音楽）だけを考えても、それぞれの問題点は異なると存じます。
それぞれが必要としていることを精査し、その必要性を公平に順位付けすることが求められます。

○　文化を支える人材の育成について

①どのような人材の育成が必要とされており、国はどのような役割を担うべきか。

全てに渡り、教育が必要です。
人材を育成するためには、長い年月と費用がかかります。
我々伝統芸能の世界では、五十、六十洟垂れ小僧と昔から云われております。
国は教育にもっと力を入れるべきです。

②特に、無形文化財の伝承者や文化財保存技術の後継者をどのように育成するか。

現在のような状態に陥ってしまったのは、国が明治維新以来自国の文化芸術を粗略に扱ってきたからだと考えます。
国が有形、無形文化財の伝承者の育成、及び、文化財保存技術の養成の為の、せめて専門大学などの教育機関を早急に整備すべきです。
絶滅寸前と思われる術が沢山あります。

③また、将来の文化の担い手たる子どもたちへのアプローチをどのように図るか。

幼児期から素晴らしい芸術に触れる機会を多く与えることが最も重要です。
音楽では、胎児の段階から聞かせていくことが重要であると云われております。

○　文化発信と国際交流の推進について

①文化発信をどのように進めるか、特に東アジアを中心に世界との文化交流の推進をどのように図るか。

日本には多様な文化が存在します。
我々が伝承しております邦楽も、箏は雅楽の箏を日本流に改良して、江戸時代を通じて今のように発展させたものです。三味線も、1562 年もしくは 64 年に伝来し、江戸時代に多種多様な音楽を作り上げてきました。
インターネットという素晴らしい技術を活かし、国が多種多様な日本文化をどんどん発信していくべきではないかと思います。

②日本人の生活文化全般を、観光振興等にも留意しながら、どのように積極的にアピールしていくか。

東京では考えられないほど豊かで心温まる生活が日本各地にまだまだ残っております。
昔ながらのリズムで生活をしている、東京の人間には信じられないような風景があります。
インターネットなどを通じてそれをアピールすれば、多くの人が訪ねてくると思います。

○　文化芸術を振興するための新たな手法の導入について

①寄附税制の拡充を含む寄附文化の醸成をどのように図るか。

税制面でも、もっと優遇する必要があります。
日本には、昔からご助会的な、助け合う精神があったように思います。ボランティア活動などが認知されてきた昨今ですので、文化面でも、小額の寄付をつのるようなことは受け入れられやすいのではないかと思います。

②マッチング・グラントなど民間資金導入の新たな仕組みをいかにして構築するか。

残念ながら、少なくともここ数年に関しては、民間資金などはあてにならないような状況になるのではないかと存じます。

③国、地方、民間、企業等による共通基盤と協働の場をどのように整備するか。

文化芸術を総合的に見て、提言できるような集まりを、関係省庁・地方自治体の文化担当者、民間企業の文化施設の代表者などで構成してみてはいかがでしょうか。

④劇場・音楽堂など文化芸術拠点の充実をいかに図るか。

国、都道府県、市町村が各個に充実を図ろうとすると、非効率的になり、地域でもバラツキが出てしまいます。
都道府県庁所在地には立派な都道府県立文化会館と市立文化センターがある一方、隣の市にはボロボロの体育館兼用の市民会館しかないというようなことが各地で見受けられます。
いつも何とか調整できないものかと考えております。